花咲き歴史香る町 荒砥（あらと）

平安時代に、奥州・藤原氏の家臣荒川次郎清泰が、八乙女ヶ丘に城を築いたのが荒砥が栄えた始まりです。

そして、今の神明堂付近にあった町が大洪水により突然姿を消した後、高台にできたのが、現在の荒砥です。

荒砥城は、伊達藩や上杉藩の北の守りとして重要な所でした。

また、最上川舟運による米や紅花、生糸、青苧などの集積地でした。

その後、大正時代に鉄道が通ると電柱用の丸太や建築用材など、木材輸送の中心地になりました。

春には、古典桜が咲き誇ります。

①八乙女八幡神社

源義家が戦勝を神に感謝しこの丘に弓矢を立てて祀り、八人の乙女による舞も奉納されたと伝えられている。荒砥郷十二ヶ村の総鎮守として信仰されてきた。

八乙女八幡神社「八乙女種まきザクラ」

②八乙女種まきザクラ

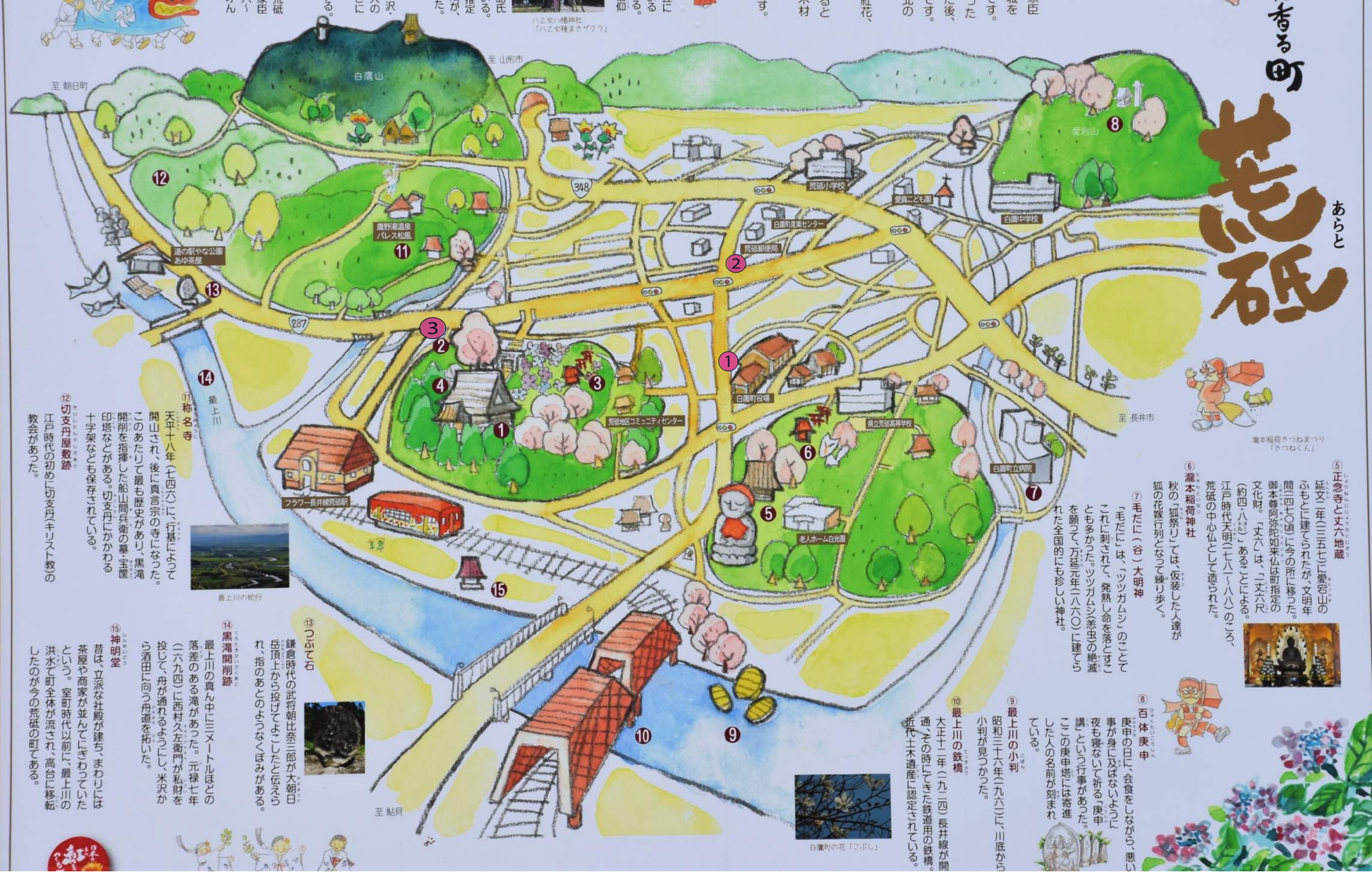
当時の荒砥城主伊達家の家臣桑島氏によって植えられたといわれている。樹種はエドヒガンで樹齢五百年と推定され県指定の文化財。開花の時期が、種もみを苗代に蒔く目安となった。

③御幡稲荷神社

慶長五年（一六〇〇）九月十一日、米沢・上杉家の家臣直江兼続が二万人の兵と共に山形方面に攻め込むときに戦勝を祈った。白狐に先導された話が伝わっている。

④荒砥城跡

荒砥駅の南東にある小高い丘が荒砥城のあった所で、奥州・藤原氏の家臣荒川次郎清泰が永長の頃（一〇九六～九七）に城を築き「八乙女城」と呼んだといわれている。



最上川の蛇行

⑤正念寺と丈六地蔵

延文二年（三五七）に愛宕山のふもとに建てられたが、文明年間（四七〇頃）に今の所に移った。御本尊阿弥陀如来仏は町指定の文化財。「丈六」は、「一丈六尺（約四・八メートル）」あることによる。江戸時代天明（一七八一～八八）のころ、荒砥の中心仏として造られた。

⑥瀧本稲荷神社

秋の「狐祭り」では、仮装した人達が狐の花嫁行列となって練り歩く。

⑦毛だに（谷）大明神

「毛だに」は、「ツツガムシ」のことでこれに刺されて、発熱し命を落とすことも多かった。ツツガムシ（恙虫）の絶滅を願って、万延元年（一八六〇）に建てられた全国的にも珍しい神社。

瀧本稲荷きつねまつり「きつねくん」

⑧百体庚申

庚申の日に、会食をしながら、悪い事が身に及ばないように夜も寝ないで祈る「庚申講」という行事があった。ここの庚申塔には寄進した人の名前が刻まれている。

⑨最上川の小判

昭和三十六年（一九六一）に、川底から小判が見つかった。

⑩最上川の鉄橋

大正十二年（一九二四）長井線が開通、その時にできた鉄道用の鉄橋。近代土木遺産に認定されている。

白鷹町の花「こぶし」

⑪慶長五年（一六〇〇）九月十一日、米沢・上杉家の家臣直江兼続が二万人の兵と共に山形方面に攻め込むときに戦勝を祈った。白狐に先導された話が伝わっている。

⑫切支丹屋敷跡

江戸時代の初めに切支丹（キリスト教）の教会があった。

⑬つぶて石

鎌倉時代の武将朝比奈三郎が大朝日岳頂上から投げてよこしたと伝えられ、指のあとのようなくぼみがある。

⑭黒滝開削跡

最上川の真ん中に三メートルほどの落差のある滝があった。元禄七年（一六九四）に西村久左衛門が私財を投じて、舟が通れるようにし、米沢から酒田に向う舟道を拓いた。

⑮神明堂

昔は、立派な社殿が建ち、まわりには茶屋や商家が並んでにぎわっていたという。室町時代以前に、最上川の洪水で町全体が流され、高台に移転したのが今の荒砥の町である。

⑰称名寺

天平十八年（七四六）に、行基によって開山され、後に真言宗の寺になった。このあたりで最も歴史があり、黒滝開削を指揮した船山間兵衛の墓・宝筐印塔などがある。切支丹にかかわる十字架なども保存されている。